

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>○個々が主体的に学ぶ意欲を高め、希望する進路選択に適う単位制総合学科の趣旨を生かしたカリキュラムを編成する。</p> <p>○確かな学力向上に向けて、生徒の学習意欲を高めるために、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①生徒のニーズに応じた科目選択や効果的な履修指導を実施し、総合学科の趣旨を生かした主体的な学習につながる教育課程のあり方を検討する。</p> <p>②ICT 機器を効果的に活用した授業改善を行い、機器に頼ることなく、他者との協働を通じて主体的に学ぶ姿勢を培い、機器を有効に活用する能力を養う。</p>	<p>①生徒の進路実現に向け、個々のニーズに合った科目選択ができるような時間割編成を行い、適切な履修指導を進め、総合学科の趣旨を生かした、教育課程の編成を検討する。</p> <p>②ICT機器を効果的に活用した授業改善を行い、生徒が主体的に他者と協働し機器を活用しながら学習する能力を養う。</p>	<p>①生徒の希望を適切に受け入れられるような時間割編成につとめ、関係部署と連携して丁寧な履修指導を行ったか。また、生徒の主体的な学習につながる、総合学科の趣旨を生かした教育課程のあり方を検討できたか。</p> <p>②ICT 機器を効果的に活用した授業改善を行い、他者との協働を通じて機器を有効に活用する能力を培い学習することができたか。</p>	<p>① 生徒との面談を通して進路に応じた科目選択を支援し、需要に沿う講座や時間割を検討した。主体的な学びを促すため指導法と教材を工夫し授業改善を図った。</p> <p>②ICT 機器や携帯電話の取扱い研修を行い、授業への活用を推進した。協働学習や視聴覚教材を活用し主体的な学びを促進したが、生徒の ICT 活用には一層の工夫が求められる。</p>	<p>①生徒の進路実現に向け、科目数と抽選方法の見直しは課題である。進路に応じた指導と基礎学力の充実を図り、時間割と教材改善を進める。</p> <p>②ICT 機器や携帯電話の取扱いは教職員間の統一が必要である。生徒の活用力向上と安全性に配慮し、運用ルール整備や授業改善、教材共有を推進する。</p>	<p>・授業科目の多様性や自由な選択を特色として掲げている以上、生徒の主体性を育む意味でも抽選により科目が選択できない事態は、極力避けるべき。</p> <p>・希望者数が多く履修者数を制限する場合、機械的な抽選ではなく、面談や志望理由書等で選考することも、今後は検討されたい。</p> <p>・情報リテラシー向上への取り組みも今後期待したい。</p>	<p>① 教科や系列と調整をしながら時間割を設定し、概ね生徒の進路希望に応じた履修指導が実現できたが、抽選方法等については課題が残った。</p> <p>② ICT 機器を効果的に活用した授業改善については研修等を実施し推進してきたが、個々のニーズに応じた活用という点には課題が残った。授業中における携帯電話の使用に改善がみられるが、引き続き統一した指導が必要である。</p>	<p>① 総合学科ならではの教育課程や科目選択のあり方を再確認して、主体的な学びが実現できるシステムを検討する。</p> <p>② ICT 機器の効果的な活用については、研修の方法を検討して、授業改善につなげていく。授業中の携帯電話使用については再度職員会議等で指導方針を確立していく。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>○日常的な生徒指導を組織的に行い、規範意識の醸成及び、個に応じた相談・支援体制のさらなる充実を図る。</p> <p>○生徒主体の学校行事や部活動を推進し、リーダーシップを育成する支援を継続的に行っていく。</p>	<p>①職員間で相談・支援体制を共有し、迅速にかつ生徒に寄り添った生徒指導を心がける。</p> <p>②学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒が主体的に動ける力を育み、日常生活ではHR活動で生徒の規範意識の向上を図る。</p> <p>③多様な生徒の状況を踏まえた教育相談体制を構築し、支援の必要な生徒に寄り添った対応を充実させる。</p>	<p>①指導の目的を明確化し、職員全体で生徒指導に当たられるような工夫をしながら実施する。</p> <p>②学校行事や委員会活動、部活動において、生徒一人ひとりが自らの役割を考え、動ける力を育むよう工夫する。</p> <p>③「かながわ子どもサポートドック」の実施時期、方法等を検討し、適切に支援ができるように組織的に対応していく。</p>	<p>①挨拶運動、定期的な身だしなみの指導、再登校指導などに職員全体で意義や目的を共有しながら、取組むことができたか。また、職員全体で指導体制が共有できたか。</p> <p>②生徒がそれぞれの場面で、自ら動くべき時がわかってきたか。生徒の意見は正しく反映されたか。部活動の加入率は上がったか。</p> <p>③「かながわ子どもサポートドック」を有効に活用し、面談等の適切な支援ができたか。</p>	<p>①職員間で意義を共有し、年次や各グループと連携して特別指導や基本的生活習慣の改善、規範意識の周知に努めた。</p> <p>②生活指導を通じて主体性を育成し、行事への自律的参加を促したが、生徒意見の反映や部活動加入には課題が残った。</p> <p>③面談を強化し情報共有を進め、支援が必要な生徒を SC・SSW へ適切に繋げた。</p>	<p>①日常的に指導できる体制を整え、学校全体で統一した身だしなみ指導とルール遵守の意識を継続的に育成する。</p> <p>②生徒の意見は精査して反映し、行事運営で主体性を育成するとともに、規範意識と部活動加入率の向上を図る。</p> <p>③担任の負担軽減を図りつつ、組織的な支援体制を強化する。</p>	<p>・生徒指導について、職員間で意義を共有し、年次・各グループで連携して指導されている点を評価する。</p> <p>・今後、生徒指導が複雑化し、各教員の負担が増加することを見据え、教員の指導方法のバラつきを極力抑えるための仕組化を期待したい。</p>	<p>① 日常的な生徒指導の意義について、職員全体で共有し学校全体で統一した指導を実施して、規範意識の醸成を図ることができた。</p> <p>② 生徒による主体的な運営をサポートしたが、生徒の意見反映については今後の検討事項である。</p> <p>③ 「プッシュ型面談」を重視して取り組んで、SCやSSWに生徒をつなぎ支援をすることができた。</p>	<p>① 来年度も引き続き、学校全体で統一した指導を実施するとともに、登下校指導や挨拶運動等を通して、社会性やルール順守の意識の高揚を図っていく。</p> <p>② 生徒の意見については、メリハリをもって対応し、部活動を活性化させ、加入率アップにつなげる。</p> <p>③ 担当や担任等、限られた職員だけではなく、今年度以上に組織的な支援体制を確立して対応をしていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○ガイダンスの授業を軸としたキャリア教育のさらなる充実を図り、主体的な進路選択の支援を実現する。 ○学校外の教育力を活用して「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を育み、キャリア発達を促す。	①ガイダンスの授業を通して職業観を養い、キャリア教育を推進する。また、外部機関の力を借り、自ら学ぶ姿勢を養い課題解決能力を身に付ける。 ②生徒一人一人の個性を活かした進路実現の支援を行うため、外部教材を用いて基礎学力を身に付け、進路選択の幅を広げる。	①ガイダンスの授業において、自己実現や課題研究の充実を図るために生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業を提供する。 ②生徒の探究心の向上を目指すため、外部機関で体験やインタビューを行う。また、外部教材のスタディサポート等を活用し、生徒の学習習慣を確立させる。	①生徒が興味・関心を持ったか。それにより、生徒の職業観の形成に効果があり、生徒の進路未決定者数を減ったか。 ② 外部機関との連携先への体験人数を増加し、主体的に学ぶ生徒が増えたか。また、進路に関する生徒の相談やスタディサポートを有効に活用できたか。	① 課題研究や体験学習を通して外部と連携し、生徒の進路希望に応じた指導を行ったが、進路未定者は昨年と同数だった。 ③ 外部機関との協働や連携講座、進路説明会等の体験人数が増え、生徒の進路選択の幅を広げるとともに、主体的なキャリア形成を支援した。	①生徒の進路希望に応じた外部連携や相談体制の整備、ガイダンス内容の精選と指導時間の確保が課題である。 ②外部機関や他校との連携強化により、課題研究への意欲向上と学校外での学習機会拡充を図るため、情報共有の改善が求められる。	・大学や専門学校について、説明会等への参加や広報物の分析そのものを課題研究に取り入れ、必ず複数の学校を比較させてはどうか。 ・外部機関と連携し、進路希望に応じたキャリア教育や指導を行っている点を評価する。進路選択の幅を広げるためにも、引き続き生徒の学習習慣の定着を期待したい。	① ガイダンスの授業については、担当が生徒のニーズに応じて外部機関等と連携して充実させたが、進路未定者は同数だった。 ② 進路説明会については、外部機関と調整を重ねて、生徒のニーズにあわせて実施した。外部機関への訪問を通して主体性や意識の醸成を図ったが課題も残った。	① 引き続き授業内容を生徒の実態に合わせて充実させるとともに、ガイダンスプログラムの再構築と進路相談体制の確認をする。 ② 校内での情報共有を強化して、外部機関や他校との連携はこれまで通り継続するとともに、スタディサポートの活用方法を模索する。
4	地域等との協働	○学校運営協議会を通して、地域と連携・協働して教育活動の充実を図る。 ○積極的に本校の教育活動を発信し、社会に開かれた学校づくりに引き続き取り組む。 ○防災意識を高め、本校のSDGS(防災)の体制づくりに取り組む。	①学校運営協議会の評価をもとに課題や改善方策を模索するなど外部との協働による教育活動の充実を図る。 ②本校の教育活動をホームページ等でリアルタイムに更新し情報発信することで開かれた学校づくりを推進する。 ③本校の防災体制を再考するとともに地域との連携を加えた防災訓練等を通じて防災への意識を高める。	①学校運営協議会で確認された成果を今後も継承し課題の整理と課題解決を図る。 ②学校説明会や中学校訪問文化祭やオープンスクール等を通じて学校の魅力を中学生や地域の方々へ発信する。 ③本校および地域との連携を加えた防災訓練を実施する。	①教育活動の成果を確認し継続出来ているか。また課題の整理と解決が図られているか。 ②開かれた学校行事での来校数は増加しているか。また来校時のアンケート結果の集約し今後に活かされているか。ホームページの更新と更新回数状況確認。 ③防災訓練を通じて、生徒に防災への意識を高めることができたかどうか。	① 学校運営協議会からの提言を受け、教育活動の成果を再確認した。 ② 文化祭等で授業での成果物を紹介し、特色の理解を深めていただき、教育活動もホームページに掲載した。 ③ 年2回の防災訓練を実施し、地域保育園との合同避難訓練にも取り組んだ。	①学校運営協議会の評価を踏まえ、課題改善と協働体制の充実を図る。 ②文化祭等で科目の成果発表の機会を設け、学習内容への理解向上と教育活動の充実につなげる。 ③津波想定避難訓練を実施し、来年度へ向け安全で迅速な避難体制になるよう改善する。	・総合学科の特色である学校設定科目について、文化祭やオープンスクール等の機会に成果発表を行っていた。これは学習成果の可視化を通じて、地域や中学生への魅力発信となる他、生徒自身の学びの振り返りにつながると思い今後も継続すべきである。	① 学校運営協議会委員の提言を受けて、本校の教育活動についての成果や課題等が明らかになった。 ② 学校説明会や文化祭、ホームページを利用して、特色ある科目の授業内容を広報したが、リアルタイムで更新できなかった。 ③ 今年度も保育園との合同避難訓練や近隣施設の避難訓練に協力して、生徒や職員の意識の醸成を図った。	① 地域行事への参加を促すとともに、ボランティアスタッフとして運営等に関わらせて、部活動や生徒会活動を活性化させる。 ② ホームページの更新回数増や文化祭等で特色ある授業の発表や成果物等を発信して総合学科の魅力伝える。 ③ 継続して実施して地域とともに防災意識を高める。
5	学校管理 学校運営	○安全、安心な校内環境を維持し事故防止に努めて、信頼される学校づくりを進める。 ○ワークライフバランスを念頭に置き、校務の効率化を図ると共に生徒と向き合う時間を確保する。	①計画的に校内研修を実施し、法令遵守の意識を高め、事故および不祥事のない校内環境を整える。 ②グループ改編のもと、校務の見直しや検証を行い、業務内容を精選して業務の効率化を図る。	①本校独自の不祥事ゼロプログラムを定め、定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止に対する啓発活動を行う。 ②業務内容の漏れ等をお互いにチェックして、業務の精選と効率化を図り、会議等の回数や時間短縮に努める。	①事故・不祥事を防ぐために定期的に研修会を実施し、全職員の事故防止の意識を向上させることができたか。 ②勤務時間内に会議を終了し、生徒との時間が増えたか。また、Teams等の活用し打合せ時間を短縮できたか。	①年間を通じて不祥事ゼロプログラムに基づく研修を実施し、法令遵守意識を高め、事故・不祥事防止に努めた。 ②生徒支援を要する事例が多く、情報共有に時間を要したため、会議を時間内に終えることが困難であった。	①日頃から情報共有を密にしてコミュニケーションを図ることで、引き続き職員の意識向上に努めている。 ②情報共有方法を改善し、会議効率化を図る必要がある。	・職員・生徒の大きな事故や不祥事がなく学校が運営されていることは、関係者の努力と工夫の賜物と認識し評価する。 ・教員の生徒指導に要する時間は年々増加していると推察する。 ・引き続き教員の業務の効率化を期待する。	① 不祥事ゼロプログラムによる研修と状況に応じた機を逸しない研修を実施して意識の醸成を図った。 ② 情報共有する案件等が増え、会議や生徒と関わる時間が増えたが、その成果が着実に生徒たちに表れている。	① コミュニケーションを密にして風通しの良い雰囲気作りを心掛ける。 ② 打合せの時間については、内容等によってはTeamsを有効活用して時間短縮を心掛け、業務の効率化を図る。

